

八事山文庫

-3012号-

八事山・歳時記

修正会

新年を迎えると初詣に出かけられる方も多いと思います。神社に詣でる方、寺院に詣でる方、はたまたその他の祝い方もあるでしょう。興正寺では、年末の第九合唱、除夜の鐘つきから初詣と、お寺で年越しをされる方が多くいらっしゃいます。除夜の鐘について煩悩を払い、初詣で一年の健康と幸を願ってあらたな心もちでスタートを切るのです。



また年始には、お世話になってる方、親戚などへ年始の挨拶に回り、遠方にいらっしゃる方や直接伺うことができない方には年賀状でご挨拶をする風習があります。近年は少なくなっているようですが、その代わりになっているようです。その代わりに、メールやSNSなどで「今、この瞬間」を共有する方が増えています。

こうした世の流れとは別に、お寺では毎年歳々々と、元日の仏事として「修正会」が厳修されます。これは、古来中国で行われていた年始の儀式を起源とするもので、護国仏教思想と春迎えの民間習俗が混合したもので、仏前で過ちをあらため心身を正すのです。興正寺では、西山本堂で修正会を勤めた後に東山本堂で歴代住職にご挨拶となる檀上参拝をいたします。

弘法堂 初弘法 お授戒

戒は一般的に「世間的にしてはいけない規範」と捉えられている方が多いように思います。密教に説かれる戒はそのような規範だけに留まりません。例えば「不殺生戒」という戒があります。言葉通り「殺生してはいけない」という行為のみに焦点を当て遵守すれば、我々は日々あらゆる命を頂きますので、食事すら儘なりません。そこには戒の教えの本質が見えてきません。密教では見方を変えて、命を奪うよりも慈しみをもち、命を生かす心の働きを大事とします。そして、そのような善き働きにある自己の心は、仏と同質なる心(仏心)であると説かれるのです。戒は、我々に仏心が備わっていることに気付かせ、心安らかに生きるための戒となるのです。



- ◎日時 1月21日(月) 午前10時30分より
 - ◎定員 50名(当日先着順)
 - ◎参加費 無料
 - ◎場所 境内弘法堂
- ※菩薩戒牌(御守り)を授与致します。途中退場はできません。

行事のご案内

- 12月23日(日) 10時〜12時 茶室 竹翠亭にて 冬の子ども寺子屋くらぶ「雪ん」茶会」
- 日常の中にある和の心、その歴史や伝統を体験して学ぶ講座です。お茶さまをお迎えする草子も、お茶席に集うお茶さまも、すべてが子どもだけの特別な茶会です。初めて尽くしの経緯に、子ども達の表情もいつもより大人びて見えます。
- ◆支具料 子ども 1,500円(舞玉飾り工作付) 付添い 500円(抹茶と和菓子付)
- ◆申込 茶室 竹翠亭まで(10時〜16時)

除夜の鐘

- 12月31日(月)
- 大晦日といえは、やはり毎年恒例行事の「除夜の鐘」。観音菩薩様にある鐘樓堂で除夜の鐘をつき、煩悩を払い、新しい年を迎えましょう。
- ◎22時30分〜 ベートーベン「第九」合唱(五重塔前)
- ◎23時45分〜 除夜の鐘(二打100円/護摩木付)

新年初護摩祈禱会

- 2019年1月1日(火・祝)〜1月4日(金) 西山本堂にて
- 一年の計は元日にありといわれます。過ぎし一年への感謝とともに、新たな年への願いを込めて皆さまの願いを護摩・読経で祈願いたします。商売繁昌・身体健康・家内安全など、お一人一人の願いを御祈願ください。
- ◆祈禱料(御札あり) 5,000円/10,000円
- ◆申込 ①納経所にて事前申し込み 20,000円/30,000円/50,000円 ②初詣当日に申し込み

大般若経転読祈禱会

- 2019年1月5日(土)10時半〜 一庭 西山本堂にて
- 大般若経とは、全六百巻におよぶ大蔵経の中心にあり、大般若経といふ特別な読み方にて、願とケガレを吹き払う「梵風」を起し皆さまの願いが御仏に届くよう、僧侶は声が枯れるまで、できる限りの力を振り絞り祈願いたします。
- ◆祈禱料 1,000円

植樹・献木志納ご芳名

- 《金志萬円》 猪井 年秋(順不同 敬称略)
- 自 平成三十年 九月二十一日
- 至 平成三十年 十月二十一日
- ありがとうございました。
- 心より感謝申し上げます。合掌
- 八事山 興正寺

興正寺開山和尚 天瑞圓照三百回御遠忌

興正寺開山天瑞圓照和尚に寄せて

天瑞圓照和尚の足跡をたどる (12)

西山 海良

天瑞圓照和尚の足跡をたどる旅もいよいよ最終回となりました。今年「興正寺開山和尚 天瑞圓照三百回御遠忌」という特別な年となりました。一年をかけて開山和尚の築き上げた信仰を継承してまいりました。

開山和尚の一番の功績は、何といつても八事の地に興正寺を建立し、その法灯を今に伝えたことではないでしょうか。法は必ず人により伝えられ、人により広まります。三〇〇年の法灯は、弟子により受け継がれ、尾張の国により守られ、地域の人々により支えられ、今日まで法灯を紡いでおります。

現在でもその功績を称え報恩の感謝を奉げる法会が、興正寺では連続と続いております。それは開山和尚の御命日にあたる三月十四日に行われる「開山忌」です。開山忌法会では、山内僧侶をはじめとする法類寺院の方々が一堂に会し、盛大に読経をしてお勤め致します。静寂に包まれた東山奥之院に響く読経の聲は、まさに三〇〇年前、開山和尚のいたるを彷彿とさせる光景です。

さて現在、我々が目にすることのできる開山和尚のお姿には、必ず「如意」といわ

れる法具を持たれたお姿を拝することが出来ます。如意は、説法、講経、法会などのとき、僧侶が手に持ち威儀を正すために使用します。その起源は古くインドにおいて使用されていた、背を撞くための道具がその原形とされています。今でいうところの「孫の手」であり、もともとは日用品でありました。

如意とは字のごとく「思いどおり」という意味で、自在に痺い所に手が届く様を表わしているといわれます。柄の先は、雲や蓮などの形を模したものが多く、その形から「心」という文字を表わしているという説もあります。開山和尚の持つ如意には、「孫の手」のような親切心、それは仏の教えの基本である他を思いやる心、慈悲の象徴であり、慈悲の実践行を第一として仏道を歩まれた開山和尚の強い信仰心が表れているのではないのでしょうか。

興正寺建立三〇〇有余年、この長い歴史の間、受け継がれた開山和尚の教えが途絶えることなく未来永劫にこの地に光輝くことを祈念して足跡をたどる旅の締め括りとさせていただきます。

為 普賢行願皆令満足

はじめに

平成三〇年は、興正寺開山天瑞圓照和尚の三百回忌です。各地を歴訪する中で真言律宗の寺院建立を志し、縁あつてこの八事の地に「八事山遍照院興正律寺」を創建した和尚は、いかなる人物であったのか。寺に伝わる文物からそれを紐解き、一年にわたりご紹介いたします。また、今年の興正寺カレンダーでも同内容を掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

カレンダー連動企画 (12)

【第十二回】八事の法灯をいまに伝える (平成30年12月カレンダーより)

興正寺開山天瑞圓照和尚の三百回忌にあたる本年、春と秋に開催した宝物展では「興正寺三百年の歴史」と「天瑞和尚の生涯」を寺に伝わる文物により展示紹介いたしました。

今年の展覧会最大の収穫は、「八事開山天瑞和尚行状記」(八事山興正寺第五世 諦忍妙胤 撰述)を榎田英伸僧侶が訳し、分かりやすく「絵のない絵解き」として「演じてくださったこと」です。それは、この資料を訳す中で、これまで知られていなかった天瑞和尚の姿や関りをもった人々に触れることができたほか、興正寺の根幹となる天瑞和尚その人に迫る貴重な資料としてまとめ上げることができたことにあります。

また、資料を調査することで資料そのものに対する考察を深める機会ともなりました。たとえば、三月にご紹介した「鑑真和尚之笠布 二拾五条之袈裟」は、大鳥山神鳳寺の元真和尚より天瑞和尚が授かったという添え書きも残されている品ですが、広げてみると、一片だけ布の色が異なっているのです。戒律をもたらした鑑真和尚緑の大切な袈裟を、その能力を評価されていたとは言え、神鳳寺から離れていく天瑞和尚に授けられたのはなぜなのか、ずっと疑問に思っていました。展示している間、袈裟と向き合いながら資料を見返していた時、ふと、この色が異なる一片だけが鑑真和尚の袈裟なのではないか、

と思い至りました。もし、この一片が鑑真和尚の袈裟の一部であるなら、今はなき大鳥山神鳳寺ではなく、天瑞和尚が残されたこの八事にこそ、その法灯が受け継がれているといえるのではないかと感じました。

鑑真和尚の袈裟はそれ自体に価値があるのではなく、律宗の精神と教えそのものであることにこそ価値があり、それを受け継ぐことができた天瑞和尚が戒律を授けることができる僧侶がいなかった尾張にたどり着き、尾張徳川家二代藩主光友公の許しを得て興正寺を創建したことで、多くの弟子や訪れた僧侶に戒を授け、法灯を伝えることができたのです。

(川村)



天瑞圓照和尚像

墓之隊の礎

一 戊辰戦争で活躍した尾張の百姓・町人一

石碑でめぐろ 歴史浪漫

其の十七

大河ドラマ「西郷どん」も新たな感動とともに終わりました。幕末から明治にかけて天皇・将軍から庶民まで人々の人生が大きく変えられていく姿がよくわかりました。平和な興正寺も無関係ではありません。

慶応四年一月、鳥羽伏見で戦いが始まると、尾張では草莽隊(農民や町人などで構成された隊)が九隊(全国では三百余隊)結成されました。その一つが礎隊です。礎隊は、松山義根(八代六郎の兄)、土田哲二、八代逸平などが中心となつて慶応四年一月、藩の許しを得て結成されました。二月には、鳥羽伏見から篠島に落ち延びてきた幕府の軍と戦っています。

二月十八日、有栖川親王の護衛として江戸へ出陣し、四月十八日、江戸城が開城されると江戸城西の丸などの警備に就いています。五月十五日、上野戦争では、長州・備州の兵とともに尾州礎隊

の活躍が伝えられています。中でも、大砲を酒桶の三階に上げ、彰義隊本営に砲撃を加えたことが、彰義隊が総崩れの二因になったといわれ、このことにより、幕府から「褒詞」を得ています。

大日堂に向かう参道出口の左側、八代家墓地に「八代逸平(茶屋)」と「礎隊之墓」が並んでいます。建立者は、八代逸平の嗣子八代六郎です。八代六郎は礎隊のメンバーで、後に海軍大臣になりました。この時、義父や戦死した礎隊員の供養をしました。興正寺に眠ること百年、改めて「礎隊」を偲びたいと思います。

明治になって「士族」となった礎隊の隊員は、軍人になったり元の仕事に戻ったり、自由民権運動に参加したりして新しい日本の国づくりの礎を築いていきました。(小出)



礎隊の墓(左)と礎隊の墓(右)も礎隊の墓

お茶がおしえてくれた しあわせ

竹翠だより

「濃茶とは」

お茶には、濃茶と薄茶があります。薄茶はお一人に一碗ずつ茶を点てますが、濃茶は、お客が五人いれば、五人分を一碗にいつべんに点てます。お客はこの一碗を飲みますので、めいめいが五分の二ずつ飲むわけです。お茶は一人に茶約に三杯ずつ入れますから、五人分ならば十五杯ということになります。お湯の量は、薄茶に比べて一人前の量は少なく、そしてお茶の量が多いので、どろりとしていていかにも苦そうですが、ところがこれがまた、何とも言えずほのぼのとした甘みがあつておいしいのです。

濃茶と薄茶では、茶葉そのものが違います。同じく挽茶ですが、薄茶は樹齢二十一年の木にむしろを一枚おおうのですが、濃茶は樹齢百年以上の木にむしろを二枚おおつて栽培しその新芽を摘みます。さて、濃茶は、最初にお湯を全部一度に入れてはお茶も固まつて点てにくく、美味しくありません。はじめ適量のお湯でお茶がよく混ざるよう練り混ぜ、それから

新しく足したお湯とお茶がよく混ざりあうよう茶葉を少し細かに動かして練るとどろりとしたおいしい濃茶が点ちます。濃茶を練り始めると、茶室にふくよかな香りが漂います。亭主は、無心でおいしい茶を練ることに集中します。お客も、客二回が濃茶のおいしさを味わうには、温度が下がらないうちに茶碗が全員に回るよう心掛けなければなりません。

特に茶事を中心として濃茶をいただく時は、厳粛な雰囲気の中で二杯の濃茶が客一同にて飲みまわされます。濃茶は口の中に長く含むのではなくすつと飲むと甘く幸せなひと時となるようです。亭主が思いを込めた濃茶をおいしく味わうことができます。主客の心は一つになるというものです。

竹翠亭の茶の研教室でも十二月は濃茶の客の作法を学びます。(竹翠)

はつ雪茶会

一年の締めくくりとなるお茶席です。様々な出来事を振り返りながら、御縁をいただいた皆さまに感謝を込めておもてなしいたします。

日時 12月18日(火)

10時半～

12時

14時半

場所 竹翠亭

茶券 2,000円



マルシェ茶席

僧侶のお点前でお茶をいただけるお茶席です。美しいお点前の後に、ほっと笑顔がこぼれる時間をお過ごしいただけます。茶道の心得がなくとも大丈夫、気軽に参加ください。

日時 12月21日(金)

10時半～

13時

場所 竹翠亭

※普門園拝観料(500円)で参加いただけます

新 杜のコラム

「掃除の意味」

年末の大掃除。今では「気持ちよく新年を迎えるため」の単なる掃除に過ぎないと思われていますが、元来は民俗信仰に根差した宗教行事でした。

12月13日に行われる「煤払い」。これは、家の中の塵や煤を払うだけでなく、家中の厄災を払って、正月に來られる年神さまをお迎えする準備の一環だったのです。神さまの來られる場を清めてから、正月飾りなど諸々の準備を開始する。普段の日暮らしから、正月を迎えるという特別の期間に入る、物忌みのタイミングでもありました。

仏教では修行する道場において、もっとも大事なことで掃除があります。朝早く起きて、何よりも熱心にすべきが庭掃きや廊下拭き。お参りの方をお迎えするのに、お寺は何もなくても「掃除がご馳走」という言葉もあります。こういう作業を、いや修行を「作務」「下座行」と言います。家々を回って布施を乞う「托鉢」も下座行ですが、「下座に座る」つまり偉ぶることなく、人よりも一段下がって自分自身を慎み、不平不満なく黙々と務めを果たすという、厳しくも尊い、自己研鑽の修行なのです。

お釈迦さまの弟子のなかで、掃除をして悟りを開かれたお方があります。その名を「シュリハンダカ」。優秀な兄である「マカハンダカ」と二人で弟子入りなさったのですが、どんどん修行学問の進む兄とは正反対のお方。ひとつ覚えると、さっきのことを忘れてしまうような、物覚えの苦手な方でした。弟の不出来が腹立たしい兄は、とうとう弟に「僧侶を辞めなさい」と大喧嘩。見かねたお釈迦さまが、彼にはみんなと同じ修行をさせず、たったひとつの言葉だけを覚えて掃除だけをするように命じられたのです。その言葉とは「塵を払う、垢を除く」。実直なお人柄ですから、この言葉を喜んで覚え、繰り返し繰り返し口ずさみながら掃除をしていたある日。突然に僧侶としての最高の悟りの境地「阿羅漢」の位を得られたのだそうです。

下座行に打ち込むことで「自身の「心の塵」を払い、さらに普通では「こびりついて割がれないような「心の垢」までも取り除くことが出来たのです」

「二掃除、三学問」。僧侶の心得の第一は掃除です。いつまでも「下座行」を心がけたいものです。

掛田 英伸

興正寺さんぽへ 出かけましょう!

興正寺の境内をご案内♪
八事山文庫を持って、興正寺を歩いてみませんか?
いつもと違った発見があるかもしれません!



興正寺さんぽ⑨ 東山の入口能満堂

お地藏さまの遊ぶ庭、法華陀庭園の散歩は季節の植栽と、見晴らしのよい景観が自慢。五重塔をバックに眺めを楽しみながら、お地藏さまが何体いらっしゃるか数えてみましょう。小さな門にはかつてこの地にあった巨木から作ったテーブルとイスが置いてあります。一般していると、運が良ければ自然が鳴らす水琴窟の音が御鈴のように響き、風が奏でるご詠歌が聞こえるかも。ちょっと足を伸ばしてのれんをくぐると、里山と呼ばれるとっておきの散歩コースもありますよ。縁結びの神さまもいらして、優しく微笑んでくれます。法華陀庭園の脇道を上がってもいいですし、能満堂前(11)を戻って赤と白に彩られた大きな圓照堂(12)というお堂横を上がるのもいいですね。墓地参道へ入ります。石畳の脇には宝篋印塔が列をなして皆さまを迎えます。え?墓地の道なんて怖〜い…ですか?興正寺の墓地参道は明るくて、ちっとも怖くありません。家族皆で楽しく語らいながら進みましょう。いつの間にかご先祖さまと一緒に楽しんで下さいませ。(ご先祖さまですもの、怖くない…)女人門跡(13)には「女人禁制」と

ありますが、今は大丈夫。現代に生まれてラッキーと思いながら先へ進みましょう。やがて視界が開け、本尊大日如来さまが見下ろす広場に出ます。たくさんの仏さま、ご先祖さまのお墓、碑文、そしてお寺のいろいろな伝説と不思議がいっぱいの、心躍る場所なので、ゆっくりじっくり楽しんでみましょう。(井上)



地域住民に広く開かれたお寺として、
興正寺は仏教・宗教文化を守り、
伝えていく場に。

八事山興正寺

にしよ ほうしょう
住職 西部 法照 さん

Profile

岐阜にある法福寺の住職を継ぎ、1998年より渡米、15年に渡りシアトルにある高野山仏教会主任開教師、レドモンド郊外に開山したシアトル神護寺の住職を勤め引退。帰国後は、法福寺住職を引退し地域活動などを行う、2018年6月に興正寺の主監に、9月より住職として就任。



人と街とお寺をつなぐ場所
八事山文庫
地域版

今年9月、八事山興正寺に新たな住職が就任した。これからの興正寺がどのように進んでいくのか、とても気になるところである。今回は、新任住職である西部住職に、これからの興正寺のことなどを含め、お話を伺った。

「お寺というものは、宗教的な信仰が軸にあり、仏教」というひとつの宗教文化をどのように伝えていくかを考え、実行していく場所です。仏教・宗教文化を伝えるということには、人生や人が成長する過程において、とても大切なことだと考えています。それが、先祖であつたり、お寺との関わり、七五三などの行事だったりしますが、人海や涙を越えた目に見えない神秘性との関わりをどこかで感じることが、苦しい時など人は心の中に救いを見つけていることができるんです」と、西部住職は語る。住職がそう考える背景には、アメリカのシアトル神護寺で、住職をしていた時の経験にある。「当時30代、40代の参拝者がお寺を訪れていました。戦後、技術力などを武器に日本からアメリカへ移住した新一世と呼ばれる人達です。有名企業などで活躍していました。しかし、移住した人全員が成功し、生き残ってきたわけではありません。困ったり、壁にぶつかり、挫折した人も多数。そんな中で何とか壁を乗り越えてきた人達に『何に救われたのか?』ということを探ったんです。その時に多くの人から『先祖に救われた』という言葉が返ってきました。さらに続けて西部住職は語る『日本にいる

と先祖や仏教文化の存在を、空気のようにはあまり意識することがないですが、海外で先祖や仏教文化が全く抜け落ちた社会に在ると、それらが顕在化してくるんです。これをアイデンティティと言うのでしよう。先祖や仏教文化を根底に持っているか否かの違いが、救いを見出せるかどうかに関わるのだというところを感じました」とのこと。

仏教・宗教文化についてどういった考えを持つ西部住職が考える。これからの興正寺、とは。

「興正寺は普通のお寺とは少し違う規模を持つので、地域の文化の集積や発信をする場所としての役割はもちろんです。檀家さんによつて維持されたり、檀家さんのためだけのお寺ではなく、もつと広く地域住民の方々に開かれたお寺であると考えます。そして、仏さまに手を合わせたり、お墓参りをしたり、初詣などの行事に参加したりして、お寺との関わりを持つことにより、お年寄りから子どもまで、多くの人の人生を豊かにする役割を興正寺は担っていると思えます。ですから、資本主義的な発想ではなく、仏教本来の姿に立ち戻る必要があります。商業的な情報発信ではなく、文化的な行事を行い、文化的な発信を行っていくことを大切にしていきたいです」と、西部住職は語った。

柔らかな人柄の西部住職。優しさの中にも、海外経験などで培ったバイタリティと客観性、仏教を大切に思う芯の強さを感じた。興正寺のこれからの歩みに注目していきたい。



住職お気に入りの場所のひとつ、日本文化と季節の移ろいを感じられる竹家亭



本堂から大日堂へと続く道も、とても静かであって良いとのこと



豊かな自然と、しっとりとした神秘的な雰囲気を持つお寺は、市内にも数少ないという。

お坊さんダイレクト・出張版
仏事のお悩み相談室



ひろみちゃん

Q よく真言の最後に「ソワカ」とありますが、どういう意味ですか?

A 真言は「オン(ノウボウ)で始まりソワカ」で終わるものが多いですが、繰り返し用いられるというのは、重要な意味があるからです。

「ノウボウ」も「ノウマク」も「南無ニナム」という同じインド語の少し違った表現で、中国語(漢字)では「帰命・帰依」と訳され、日本語では「全身全霊をかけて敬う、自分の全存在をゆだねる」といった意味になり、その後には仏の名や本質的な特徴などが続きます。「オン」は古代インドで神聖な音とされ、「宇宙の根源に導く」といった意味から、仏教では「帰命・供養/仏の三徳を表すとされます。ソワカですが、元来は火の神アグニの妻の名で、護摩を焚きながら真言を唱え、最後にアグニを燃やすために「ソワカ」と言いながら香を火にくべたそうなので、強いて訳すならば「幸あれ!めでたし!/栄栄!」などになります。もしがすると「万歳!」に近いかもしれません。



英伸さん

お気軽に「仏事のお悩み相談室」をお寄せください。仏壇にまつお祈り、お墓参り、お葬儀にお答えいたします。お葬儀に必要事項を明記の上、左記宛先までお送りください。

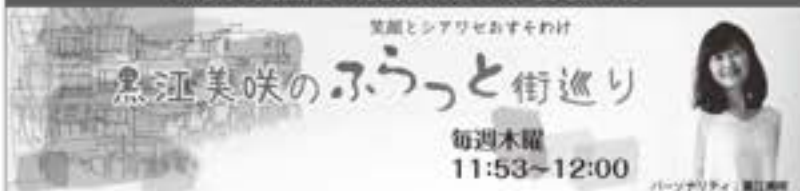
【必要事項(お葬儀は記入欄を参照)】

- ・ひとと相相談 (40文字まで)
- ・お名前
- ・年齢
- ・性別
- ・ご住所
- ・お電話番号
- (ひとと相相談以外は掲載いたしません)

【お葬儀の宛先】

〒466-10825
愛知県名古屋市昭和区八事本町7-8
八事山 興正寺 僧侶殿内
八事山文庫 「仏事のお悩み相談室」係

「もっと地元を好きになってほしい」という想いから生まれた
八事山興正寺の提供のラジオ番組です



知ってるお店が登場するかも?! @FM80.7

11月1日 放送 お好みハウスふーふー
名古屋市天白区元八事5-122 TEL:052-833-4967
【営業時間】昼の部 12:00~14:00(13:30LO)
夜の部 18:00~24:00(23:30LO)
【定休日】毎月第2・4火曜日
かつては喫茶店を営んでいたということで、店内にはその面影が残っています。お好み焼き、焼きそば、焼きうどんには多彩なトッピングが用意されており、自分好みにアレンジしていただけます。また、メニューにない注文にも可能な限り応えてくれます。

11月8日 放送 セレクトショップAQUA
名古屋市昭和区単人町6-7 TEL:052-832-7744
【営業時間】10:00~20:00
【定休日】
おしゃれな方が多く、目が肥えている街であることから、30代から50代をターゲットに、30社のメーカーの中から、素敵なものをセレクトしています。お客さまが主役であることを主にした品ぞろえで、平日はどかけてゆくり選んでいく方もある。

11月15日 放送 fat cat billiards
名古屋市昭和区単人町7-8 いりなか駅ビル2階 TEL:052-832-7805
【営業時間】15:00~1:00
【定休日】
80年代のビリヤードブームのフロアを彷彿とさせる店内には、プールが6台並んでいる。昼間は学生、留学生が、夜は常連さんが集まり楽しんでいる。お店主催のビリヤード大会も3か月に1度開催されている。15時から20時はフリータイムなので安心して楽しめる。

11月22日 放送 アジアンフットケア(リフレクソロジー)
名古屋市昭和区滝川町32番地 ナビオ秋中B1F TEL:052-835-9366
【営業時間】10:00~20:00 予約優先
【定休日】火曜
名駅で始めたお店を移転。10数年來のお客さまも通うアットホームなお店。東洋医学に基づいたリフレクソロジーが特徴。足ウラをマッサージすると、全身の血液循環を良くすることができる。現代病であるPCやスマホ疲れにはフェイス&ヘッドケアがおススメ!

11月29日 放送 みどり楽器・おんぶ館(音楽教室)
名古屋市昭和区単人町3-10 TEL:052-836-0811
【営業時間】平日 10:00~21:00 日曜 10:00~20:00
【定休日】土曜
ピアノ、バイオリン、ギター、ドラム、和楽器にボーカルと多彩なレッスンがある。笑顔で楽しく教えてくれる先生たちに学び、発表会を目指して頑張る人も多い。近々ではクリスマス会がある!生徒さんもの成長(親子で演奏)から87歳まで幅広い。

こちらからもお聞きいただけます <http://fma.co.jp/f/prg/machimeguri/>



10月初旬から咲き始めた四季桜

八事のお山の

昨日

今日

あした

八事のお山と一言で呼んで、いろいろとご紹介してきました。元々は八事山興正律寺という徳川家由来の寺院の境内です。当時の「興正律寺には寺院としての役割はもろんでしたが、一種の「磐」として尾張藩を守る役目もあつたという意見があります。その歴史の痕跡が、踏み分け道の形や、植栽や、地形に人為的な造作として様々な形で今も残っています。そういった歴史をコツコツ調査している方達もいて、このお話しがまた、実に面白いのです。現在の八事のお山は興正寺境内部分と名古屋市昭和区管轄の公園に分かれ、皆さまの憩いの場となっています。松林に風が渡る

律寺だった頃の山の姿は遠くなり、山桜や藤の巨木がわずかに昔を彷彿とさせているのみ。現在は植林された若い桜や子供達に人気のドングリを育む木々が混在する森となりました。いくつかのグループが前述のように様々な形でお山を守っておりますが、次世代問題が出ております。森が壊れて育てるように明日のお山を育てるのは、今日この森を、お山を歩く皆さまです。自然に身を預けながら、お山が語る古の人々の思いに心馳せ、明日のために今日のお山を歩いてみませんか。(井上)

地元の元気なお店、気になるお店をご紹介します!

地元のお店に行ってみよう!



とんこつ野菜ラーメン

地下鉄いりなか駅2番出口から徒歩1分のところにある一兆は、いりなかで15年愛されているラーメン店。あっさりめのとんこつスープにオリジナルの細麺が特徴です。中でも人気なのは、野菜がたっぷり入った「とんこつ野菜ラーメン」(780円)。もやし、ニンジン、玉ねぎ、キャベツ、ネギが山盛り。炒めた野菜のシャキシャキの食感がたまりません。

一兆

名古屋市昭和区単人町8-15 LS秋中1F
TEL:052-832-1233
◎営業時間 / 11:30~14:00、18:00~22:00
◎定休日 / 月曜日 ◎駐車場 / あり(6台)

お知らせ 掲示板

12月 季節のそば

にしん蕎麦

5・13・21日限定

甘味・食事処 八琴庵



京都の老舗かく谷さんの身欠き鯉甘露煮を贅沢に一本そのまま乗せた「サラザンオリジナルにしん蕎麦」です。寒い季節にしっかり味付けし、ふっくらとした鯉の身を温かい蕎麦と一緒に楽しみください。

12月定休日:12/11(火)・1月定休日:1/8(火)
営業時間:10:00~16:00(L.O.15:30)
定休日:毎月5日を過ぎた火曜日

こよみよみ

十二月・師走
年が終わる「年果つ」
僧侶が走る「師走す」

十二月七日 大雪
本格的な冬の始まり。山々は白く覆われ、
平野部でも雪がちらつくことがある。新しい
年の準備を始める頃。

十二月二十二日 冬至
一年で最も昼が短く夜が長い日。寒さ
を乗り切るため栄養あるかぼちゃを
食し、柚子湯に浸かる風習がある。

12月

八事今昔物語り くそこにお寺のある暮らし 16

五重塔から見て東側は、深い森と
多くのお堂が点在します。反対に、
五重塔や西山本堂を含む部分を西山
普門院と呼び、中心のお堂は観音堂
でした。秘仏の正観世音菩薩は尾張
二代光友公の念持仏でした。他にも、
かつて洪水で村が流されたとき、水に
浮いておぼれる人々を救ったという
伝説の残る観音さまもいらっしやい
ます。また、普照殿の中には開山天瑞圓
照和尚の遺られた、白い象さんに乗った
大きな普賢菩薩さまもおられます。この
白い象さんが実にカワイイのです。どこ
かユニークで、きつと初めて普賢菩薩

像を作った古えの人は、「象」という動物
を實際に見たことがなかったのだでしょう
ね。はるかな昔、名も無き人々の願いが
「伝説の聖なる動物」に心寄せ作った
仏像の聖式が、現代にも伝わっているの
です。普賢さまは「千手千眼」の守護本尊
ですが、すぐ側には千手千眼の本尊勢至
菩薩さまもおられます。この千手は
年の他にも時刻を表す言葉として、
時代劇などに出てきますね。千手は
ちようどお昼頃を表し、正午は「正に
午の刻」、その後を「午前」「午後」
と呼ぶのです。普賢菩薩は、使っている
言葉が、実は昔から続く時刻の呼び方

だったのです。お化けが出るのは三つ
時、丑の刻(夜中の三時)頃のことです
し、おやつは「八つ」時(午後三時)の事
です。暦は偉大な先人がくれた偉大な
智慧の集合です。千支という言葉を使っ
て年や月日や時刻を示し、仏さま
の智慧と明日への希望を今に伝えて
いるのです。古くから伝わり、今に残る
モノや事柄には、単なる「作り物」や
「迷信」と見えるものが多々あります
が、その中には数知れぬほどの多く
の想いや願い、知識が込められていて、
お寺とはその心に触れられる場所なの
です。(井上)

今月の興正寺サン



三重県在住
倉田さんファミリー

三重県津市にある辻
岡醸造で、味噌や醤油
を製造されている倉田
さんファミリー。この日
は、マルシェを見学しに、
初めて興正寺を訪れた
のだそう。

「バラエティ豊かで、地
域に根ざしたお店が多
く、面白いですね。こう
いったイベントを開催で
きる広々とした素敵な
お寺があるのは、とても
羨ましいです。地元には
こういう場所が、なか
なかないので」と、倉田
さん。



昭和区在住
田中さんファミリー

本堂横の納経所で、
仲良くおみくじを引い
ていた、田中さんファミ
リー。お住まいが「近所
」ということもあり、散歩
やお参りで、よく興正寺
を訪れているという。

小学5年生の娘さん
は、本堂に小さな頃から
興正寺には何度も遊び
に来ているという。小学
校の校外学習として、興
正寺の緑地で、一人三百
円を持って、お買い物実
習をしたりすることも
あるのだそうだ。「興正
寺に来るのは、楽しくて
好きです」と、はにかみ
ながら娘さんは言ってく
れた。

千燈祭・稚児行列報告

去る10月6日に富山最大の行事、
千燈祭が行われました。当日は台風
25号の接近に伴い生憎の雨天となっ
てしまいましたが、無事に大日堂での
柴燈大護摩を修法することができ
ました。

柴燈大護摩の前には、きらびやかな
衣装を身にまとった稚児さんと寺外
を練り歩く、稚児行列も予定しており
ましたが、こちらも天候がすぐれず
本堂や大書院を使つての稚児行列と
なりました。本堂では知多平島和太鼓
こころ会の迫力ある演奏が始まり、
普段立ち入ることのできない回廊での
お練りをし、大書院においては約80名
もの御詠歌衆の方々による披露も
行われ、参加されたご家族にとつて
良い記念の日となったようです。

千燈祭の始まりは濃尾地震の被害に
遭われた方々への鎮魂であり、そこから
派生をして境内を千以上の燈籠で
灯し、有縁無縁の魂を供養しています。
当日も数多くの燈籠の奉納があり、
夕間に染まる境内を彩りました。

また、柴燈大護摩では参拝者全員の
願いが成就するよう、数多の修練を
積んだ大紙師をはじめとする山伏衆
が熱帯を繰り広げ、大変多くの方々
で大日堂が賑わいました。



△柴燈大護摩に高摩木を投じる

興正寺のまなびの講座紹介

興正寺マルシェ 写経・写仏

華やかな屋台で賑わう興正寺マルシェの日の「写経・
写仏」は、1時から14時の間にいつお越しいただいても
いい、ゆるやかな講座ですが、実は興正寺をずっと
見守ってくださっているボランティアの方々や運営
をお手伝いくださる、興正寺でもっとも昔から続く
講座でもあります。

受付で写経か写仏の用紙をお選びいただき、「写経」と
いう細かな粉のお香を手に取り、体にこすりつけて身を
清めます。筆ペンも貸し出してありますが、「自分の使い
やすいもの」をご持参いただいても構いません。写経は
般若心経が人気ですが、舍利札文やいろは歌の写経
など、短い時間で書けるものもごさいます。

写仏をご希望の場合は、弘法大師や随求さまなど
数種類ある仏さまの絵の中からお選びください。彩色
の道具も用意してあります。写経・写仏用紙は字や絵
が薄く印刷されており、筆でなぞるだけの
簡単なものになります。

初めての方でもご安心して参加いただけるように、
11時からの「写経」はじめて講座で写経の心構えや準備
の作法などをお伝えしております。また午後1時から
は写経法話と題して様々な話をしております。心静
かな仏道修行として、是非ご参加ください。(柳田)

- ◆開催日時 毎月21日11時〜14時
11時より写経はじめて講座(約20分)
13時より写経法話(約50分)
◆場 所 光明殿2階大ホール
◆支 料 1,000円(御影供への写経奉納料含む)
◆持 物 特になし(筆ペン貸与、筆記用具持参可)
◆定 員 30名

編集後記

12月31日は「大晦日」です。晦日とは、毎月の末日のことです。
一年の最後の日だから、大が付けられ大晦日なのです。今年も
様々なことがあり、興正寺にとって記憶に残る年となりました。
除夜の鐘に初詣、新たな心で皆さまをお迎えし、たくさんの笑顔
で御縁をつないでいきたいと思っております。

興正寺行事カレンダー

12月

普門園拝観(竹翠亭利用)時間 10:00~16:00
休園日(休業日) 1日(土)、2日(日)、6日(木)、8日(土)、9日(日)
15日(土)、16日(日)、18日(火)、27日(木)、31日(月)

月	火	水	木	金	土	日
26 仏滅	27 大安	28 赤口	29 先勝	30 友引	1 先負 ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴村智弘 ☆三千仏名会 (礼拝時間)9時/14時	2 仏滅
3 大安	4 赤口	5 先勝 ◎大随求明王 縁日 露店アリ 10:00 干支成満巡り	6 友引	7 大安 大雪 ▽遊翠の心 茶の古典を談む 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 樹田英伸	8 赤口 戌の日 ◎大日如来縁日 大日如来すす払い 理趣分経祈禱 12:30 大日堂 ◎安産合同祈禱会 14:00 本堂	9 先勝
☆三千仏名会 (礼拝時間)9時/14時	★永代供養受付定休日	大随求明王			大日如来	
10 友引 ▽阿息観 14:00 普照殿 杉浦 宣秀	11 先負 ▽遊翠の心 写経 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良	12 仏滅 ▽遊翠の心 きもの装い 初級10:00 応用13:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	13 大安 ◎虚空蔵菩薩 縁日 露店アリ 10:00 法話会 10:00 干支成満巡り	14 赤口 ▽遊翠の心 きもの装い 応用10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円 ▽遊翠の心 水墨画 14:00 竹翠亭 要予約	15 先勝 ◎東山奥之院縁日 13:00 奥之院 善之綱おくり ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴村智弘	16 友引
	★八尋庵定休日 ★永代供養受付定休日		虚空蔵菩薩		阿弥陀如来	
17 先負 ◎安産合同祈禱会 14:00 本堂	18 仏滅 ▽仏典読解講座 10:00 普照殿 樹田英伸 ◎観世音菩薩縁日 13:00 観音堂 護摩祈禱/法話 ☆はつ雪茶会 10:30 12:00 14:30 竹翠亭 要予約	19 大安	20 赤口 戌の日 ◎安産合同祈禱会 14:00 本堂 ▽阿息観 14:00 普照殿 杉浦 宣秀 ▽遊翠の心 茶の屏 10:00 14:00 竹翠亭 要予約	21 先勝 ◎終い弘法 10:30 弘法堂 読経/法話 ▽写経写仏講座 11:00 光明殿 ◎月並御影供 14:00 西山本堂 ☆TERA-YOGA 10:00 普照殿 要予約 ☆マルシェ茶席 10:30~13:00 竹翠亭	22 友引 冬至	23 先負 天皇誕生日 ☆子ども寺子屋くらぶ 「雪んこ茶会」 10:00~12:00 竹翠亭 要予約
	★永代供養受付定休日			弘法大師 興正寺マルシェ		
24 仏滅 振替休日 ◎地藏菩薩縁日 13:00 能満堂 大数珠おくり/紙芝居 ▽遊翠の心 日々折々の書 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	25 大安 ▽遊翠の心 阿息観 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良	26 赤口	27 先勝 ▽仏教入門講座 14:00 普照殿 森田 泰澄	28 友引 ◎不動明王縁日 14:00 不動護摩堂 護摩祈禱/法話	29 先負	30 仏滅
地藏菩薩	★永代供養受付定休日			不動明王		
31 大安 大晦日 ☆第九コンサート 22:30 平成大仏前 ☆除夜の鐘 23:45 鐘楼	1 赤口 元旦	2 先勝	3 友引	4 先負	5 仏滅	6 赤口

※阿字観(杉浦宣弘師)/御詠歌上級講座(鈴村隆弘師)/御詠歌初級講座(鈴村智弘師)の開講日程については、担当僧侶に直接お問い合わせください。(電話問い合わせ不可)

2018年10月~2019年2月

合格祈願

虚空蔵菩薩

合格

智慧や知識、記憶の御利益をもたらすことで篤く信仰される虚空蔵菩薩。積み重ねた努力に加えて合格の祈願をいたします。

祈願料 五千元より
受付は電話または来寺(納経所)にて TEL.052-832-2801(代表・8時~17時)